

**第18回セミナー&サロン 開催報告**  
**地球環境改善に貢献するエネルギーシステム**  
**—持続可能な社会に向けた技術の開発と高効率化—**

部門企画委員会 小田 浩（三菱重工業）

動力エネルギーシステム部門恒例のセミナー&サロンが、2008年10月24日横浜市にある三菱重工業㈱横浜ビルにて開催されました。会場は地上33階に設けられ、遠くに富士山、あるいは東京湾を挟んで房総半島まで見渡せるはずでしたが、あいにくの雨で期待された眺望を楽しむことはできませんでした。しかしながら、参加者は100名以上にのぼり大盛況でした。

セミナーの部は「地球環境改善に貢献するエネルギーシステム—持続可能な社会に向けた技術の開発と高効率化」という基調テーマのもと3つの講演が行われました。

まず、東京大学 工学系研究科 電気系工学専攻 山地 憲治 教授より「低炭素社会に向けたエネルギー分野の技術革新に向けたエネルギー分野の技術革新」と題して、IPCC第4次報告や洞爺湖G8サミットでの議論を踏まえ、再生可能エネルギーや原子力、CCSなどエネルギー供給における対策技術とともに需要側技術にも注目した、低炭素社会実現に向けた技術シナリオの紹介がありました。多様なデータに基づいた今後の展開予想は非常に興味あるものでした。

次に、(財)電力中央研究所 エネルギー技術研究所 研究参事 佐藤 幹夫 氏より「世界の化石燃料資源の需給動向の現状と将来展望」と題して、BP統計2008やWorld Energy Outlook 2007に基づいた、世界の化石燃料資源需給動向の現状と将来展望が紹介されました。多くの要素が絡んでいる中でエネルギー安全保障問題を考えることの複雑さを改めて感じさせられました。

最後に三菱重工業(株) 高砂製作所 ガスタービン技術部長 六山 亮昌 氏より「ガスタービン最新技術動向と高効率コンバインドサイクル発電事例紹介」と題して、燃料価格の高騰、二酸化炭素排出等の環境問題を背景に、発電プラントの高効率運用が重要視されるガスタービンの高温化、高負荷化、大容量化に向けた最新技術動向および1500℃級最新コンバインド発電プラントの事例の紹介がありました。地球環境改善に貢献する技術の開発と高効率化に大きな期待が寄せられているのが感じ取れました。

途中休憩のコーヒブレークでは、環境関連コンテンツのビデオが上映され、参加者の方々に意見交換、懇談の場を提供いたしました。

部門賞授賞式では、3名に功労賞、1名に社会業績賞が贈呈されました。また、部門一般表彰授賞式では、9名に優秀講演賞、1組に貢献表彰が贈呈されました。「中越沖地震被災時の原子炉機器健全性点検および冷温停止操作の完遂」で貢献表彰を受賞されました東京電力株式会社 入沢 善孝 氏のご挨拶は、震災の中緊急停止に直面された実体験に基づいており、参加者全員熱心に聞き入っていました。

サロンの部になる頃には雨も止み、会場からは横浜の夜景を堪能できました。会場提供者の三菱重工業(株) 佃 嘉章 常務執行役員の挨拶に始まり、部門企画委員長の日立GEニュークリア・エナジー(株) 茶木 雅夫 氏の挨拶のあと、前部門長の関西大学 小澤 守 教授の乾杯の音頭で歓談に移りました。歓談の途中優秀発表受賞者にスピーチを頂き、終始和やかにそして賑々しく親睦を深めました。サロンの部は佐藤 幹夫 部門長の中締めで一旦終了しましたが、話は尽きないようで最後の最後までグラス片手に語り合う光景が続きました。

セミナー&サロンは情報収集のみならず、大学・企業の枠を越えた人脈を築く機会でもありますので今後とも多くの方の参加をお願いします。